

公務員試験 ジャーナル

第43巻 臨増3号
2022年3月7日発行

特集 高2からの 公務員受験指導のポイント

本特集では、高校2年生から3年生の合格後の指導まで、指導の流れを8つのステージに区切って、その指導内容のポイントをまとめてみた。公務員受験指導のおおまかな流れをイメージしてほしい。

指導を始めるにあたって

公務員志望者に対してまず必要なことは、公務員の仕事の特色、採用後の待遇・勤務条件など正しい公務員像を知るための情報の提供である。

公務員には国家公務員・地方公務員それぞれにさまざまな職種があり、選択の幅が広い。その点を十分に理解させることが重要となる。当社のウェブサイトでも公務員試験情報を随時提供している (https://www.jitsumu.co.jp/gokaku_navi/news/) が、リアルタイムの情報は人事院の「国家公務員試験採用情報 NAVI」 (<https://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo.html>) はじめ、各官公庁・自治体のウェブサイトを確認して、生徒にフィードバックして欲しい。

【①高2・1学期】 ガイダンス・学習スタート

●ガイダンス・面談等

最初のステップとして重要なのは、公務員にはどのような職種があり、どのような仕事内容でどのような魅力があるのかを知ることである。

ガイダンスの内容としては、

- ①国家・地方公務員の職種と職務の概要
- ②公務員試験の概要とその流れ
- ③公務員試験の受験対策

というような基本的な説明を行う。

方法としては、まず2年生1学期初めの進路指

導の時間に、全体指導として1時間程度公務員について概要を説明し、その後に公務員志望者を対象としたガイダンスの機会を設けて、1～2時間程度でより詳しい説明会を行うとよいだろう。

その際に留意したいのは、警察官や消防士など公安系の職種では身体基準が設けられている場合が多く、あらかじめそれらの条件をクリアしていなければ受験できない点だ。無駄足を踏ませないためにも、公安系の職種を志望する生徒には、自分がその基準を満たしているか確認させることを徹底してほしい。

公務員試験は出題科目・範囲が広いので、民間就職試験だけでなく進学向けの受験勉強にも応用がきく。進路の選択肢を広げることができる基礎学力を形成する指導にもなるので、公務員志望者の絞り込みを初めから厳しくする必要はないだろう。しかしながら、公務員試験独特の科目、適性試験、作文試験などもあるため、他の進路から公務員への変更は、時期によっては準備が間に合わなくなってしまうことも起こり得る。したがって、公務員志望者は2年生の1学期中にはグルーピングをして、計画的な指導体制に乗せていくことが望ましい。

また、保護者に対しては、進路説明会などの機会に、公務員についての基本的なガイダンスを実施するとともに、自校の公務員受験指導の取り組み姿勢を説明して、理解を求めておくことが大切になる。

●試験対策指導

最初の学習プログラムとしては、

- ①教養（基礎能力）試験対策
- ②適性試験・SPI 対策
- ③作文試験対策

の3つの柱を据えて、基礎の徹底的な復習を中心に学習計画を立ててほしい。

科目数が多く、短期的にはなかなか効果が上がらない**教養（基礎能力）試験**対策では、生徒のモチベーションを維持していくことが難しい。個々の生徒の得意分野と苦手分野を把握して、前向きな気持ちで計画的に学習に取り組めるように、折々の到達度のチェックと、学習計画を見直し励ます指導を心がけたい。

公務員試験で課される**適性試験**は、いわゆる「適性検査」とは異なり、練習すればするほど着実に結果に表れる試験なので、早い段階から練習を開始するように指導したい。また、近年市役所を中心に採用されるようになってきた「SPI」も同様で、早い時期から専用の問題集などで演習を繰り返し、出題形式に慣れることが大切である。

作文試験対策としては、まず生徒には新聞を読む習慣をつけるように指導したい。新聞記事の文体は、公務員試験の作文の良い手本となると同時に、時事問題への関心を高める指導にもつながってくる。さらに読んだ記事について要約をさせると、文章表現のトレーニングとなる。

このほか、警察官・消防士などの公安系の職種では、二次試験に身体検査と体力検査が行われる。体力検査は、垂直跳びや反復横跳び、シャトルランなどが課される。公安系職種を志望する生徒には、一次試験の対策と併せて毎日の部活動などを通じての基礎体力作りを奨励しておきたい。

いずれにせよ、公務員の受験指導は、多面的な目配りをして、系統的・計画的に組み立てていくことが望まれる。

当社でも、『**高卒程度 公務員模擬試験**』のほか、公務員試験対策用の問題集等を各種取りそろえているので、パンフレットやウェブサイトなどで確認していただき、有効に活用してほしい。

【②高2・夏休み】 基礎力養成1

●試験対策指導

高卒程度公務員試験の教養試験では、多くの科目が高校で履修する科目と重なっている。したがって、高校生活での日々の学習がそのまま基礎学力となる。2年生の1学期から夏休みにかけては、中学から高校1年生までの基礎を身につけるべく、苦手教科の復習を中心とした学習計画を立

てたい。

また、夏休みに特別講習を開いている高校も多い。その際に、本試験直前の3年生とともに夏期講習に参加させて、2年生から真剣に取り組むことの意識づけに成功している事例もある。

【③高2・2学期】 基礎力養成2

●試験対策指導

9月から3学期にかけて合計4回の実施を設定している当社の高2用『公務員模擬試験』は、過去の公務員試験の出題内容と傾向を踏まえつつ、基礎力養成を主眼に置いた内容構成になっている。生徒にとっては学習の到達目標となるものであり、成績資料には弱点分野克服のためのヒントが示されている。学習のペースメーカーとして役立つので、ぜひとも活用してほしい。

●ガイダンス・面談等

12月には3年生の公務員試験の受験結果が明らかになってくる。そこで試験を終えた3年生を講師にして受験体験を中心とした報告会を開き、2年生の意識を高め、受験計画の見直しを図る大事な機会としたい。先輩の生の声は最もリアルなアドバイスとなる。

また、先生方にとっては、当年度の結果を踏まえて、2年生の公務員受験指導計画の見直す機会となるだろう。

【④高2・3学期】 基礎力養成3

●ガイダンス・面談等

この時期には志望職種の絞り込みの指導も大切となってくる。

11月下旬から、当年度の公務員の採用試験結果が次々と公表される。年度によって変動するとはいえ、受験する生徒にとっては、希望職種の受験者数や試験の倍率などの動向は大いに気になるところだ。志望先の選定や志望職種の順位決定に影響を及ぼす情報だけに、より詳しい試験結果の情報収集に努めたい。また、生徒自身の力でも情報を収集していけるような指導もぜひ行ってほしい。

一方では、厳しい試験結果に動揺して進路変更を考える生徒も出てくる。そこで、公務員志望者には改めて個別に進路相談を丁寧に行いたい。こ

資料●高校2年生からの公務員指導プログラム

【高2】 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	1学期				夏休み	2学期				冬休み	3学期	
ガイダンス／指導内容 (公務員模試)	①ガイダンス・学習スタート				②基礎力養成1	③基礎力養成2				④基礎力養成3		
	進路説明会・進路希望調査①	進路相談① 教養・適性試験対策指導開始		個別面談① (学習計画の点検)	夏期講習(教養試験対策中心)	作文対策指導開始		個別面談② (学習計画の見直し)			進路希望調査②	進路相談② (公務員志望確認)
						第1回	第2回		第3回	第4回		
【高3】 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	1学期				夏休み	2学期				冬休み	3学期	
ガイダンス／指導内容 (公務員模試)	⑤応用力養成				⑥実戦力養成	⑦試験直前対策	⑧採用面接対策					
		進路相談③ (志望先最終決定)			夏期講習(実戦型指導) 受験準備(下見など)	面接対策指導	(不合格者指導)	採用面接対策				
	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回						
本試験 ※大まかな時期		受験案内配布		出願開始		一次試験	一次試験合格発表	二次試験	最終合格発表	採用面接	採用内定	

れまでの模擬試験の判定結果を参考にして志望先選択のアドバイスと学習進度の総点検を行い、4月以降の学習につなげていくようにしてほしい。

●試験対策指導

3年生になると、実戦演習を中心とした学習となる。スムーズに学習を進めるためにも、今まで受験した模擬試験の結果をもとに弱点克服を行い、基礎学力の完成に努めてほしい。

【⑤高3・1学期】
応用力養成

●試験対策指導

4月から始まる当社の高3用『公務員模擬試験』は、過去の公務員試験の出題内容と傾向分析に基づき、より実戦的なレベルで予想問題を中心とした出題となる。4月から試験直前の9月まで合計

6回を予定しているこの模試は、生徒に毎回の学習の到達目標を示し、判定結果は進路選択の重要な参考資料となるので、ぜひとも引き続き活用してほしい。

また、3年生から新たに公務員試験対策に取り組む生徒が出てきた場合には、夏休みまでは別の試験対策スケジュールを組み立てる必要が出てくるが、その場合も『公務員模擬試験』をペースメーカーとして対策を練るように指導したい。

作文試験対策は、ある程度の期間をかけて“書く”練習が必要となる。過去の出題テーマに基づいた一人一人への添削指導が不可欠だが、『公務員模擬試験』には付録として自習用の作文用紙がついており、合格作文のポイントを踏まえた添削指導のサービス(有料)を提供している。こちらもぜひとも活用してほしい。

●ガイダンス・面談等

6月の下旬には、各試験の申込受付が始まるので、5月に入った段階で最終的な出願のための個人面談、あるいは保護者を交えた三者面談を計画し、生徒と保護者の最終的な意思確認をしておくことが大切になる。

【⑥高3・夏休み】 実戦力養成

●試験対策指導

夏休みは、公務員受験対策のための夏期講習を中心とした学習計画を組むのが一般的である。公務員志望者の少ない高校では、近隣の公務員受験予備校の短期集中講座などを利用させたり、試験の雰囲気慣れるために公開の模擬試験に参加させたりする例もある。

教養試験対策としては、これまで受験した『公務員模擬試験』をベースに復習することで、苦手分野の克服に努めたい。さらに、試験時間の配分の仕方やマークシートなどの解答方法に慣れる練習も併せて行うことをお勧めする。

適性試験・SPIは正確さとスピードが要求される。教養試験対策の勉強の合間に短時間でもよいので、毎日取り組むよう学習計画に取り込んでほしい。

作文試験対策については、これまで取り組んできた課題を書き直させたり、新聞・ニュースの時事的なテーマについて述べさせたりなどすることで、表現力を高めていく指導を行う。

●ガイダンス・面談等

志望職種と勤務希望先の情報収集に時間を取り、面接試験を見据えた準備を始めさせたい。それとともに、受験地の下調べや交通手段の確認、遠方で受験する場合は切符等の手配、宿泊の予約などの準備も生徒自身の手でしっかりと行うよう指導してほしい。

【⑦高3・2学期】 試験直前対策

●一次試験対策指導

試験直前のこの時期は、生徒自身も神経質にな

ることが多い。生徒には新しい問題集などには手を出さず、これまでの復習をすることで自信を持たせる配慮も大切になる。

9月から10月にかけては一次試験が集中的に実施される。ほとんどの受験生がいくつかの試験を併願することになるかと思われるが、風邪などをひかないように体調管理についてもしっかりと指導してほしい。

●二次試験対策指導

国家公務員試験の二次試験では個別面接が主流だが、都道府県・政令指定都市や警察官試験などでは集団面接や集団討論が併せて実施されるケースがある。できれば受験する試験に合わせた面接指導（模擬面接等）を行ってほしい。

面接試験においては、事前に提出する履歴書や面接シートなどをもとに質問がされる。採用側は、将来同じ職場で働くことを念頭に、きちんとコミュニケーションがとれるかどうか重要なポイントとしている。マニュアルに頼った回答ではなく、自分自身の言葉で自分の考えを伝えられるように十分な準備が必要となる。

具体的な面接試験対策については、次号以降でも掲載する予定なので、そちらを参考にしてほしい。

【⑧高3・試験後】 採用面接対策

●最終合格者へ

国家公務員一般職試験は、二次試験の合格イコール採用ではない。最終合格者は採用候補者名簿に登載され、各官庁の採用面接を経て内定者が決定される。

したがって、採用面接対策としては、志望官庁と職種の徹底的な研究が必要となる。さらに、志望動機をはじめ、公務員としてのキャリアプランまでを含めて、しっかりと自分自身の言葉でやる気と本気をアピールする表現力が求められる。

先生方には、生徒が内定を得られるまで、温かい支援をしてほしい。

『公務員試験ジャーナル』
バックナンバーについて

本年と前年の『公務員試験ジャーナル』のバックナンバーは、小社サイト「教材 NAVI」でご覧いただけます。

高等学校のTOPページ (www.jitsumu-kyouzai.com/highschool/)より、「活用情報」→「指導情報」をご覧ください。